


# 2019年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

## 事業実施報告書

- |     |                                    |
|-----|------------------------------------|
| I   | スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び   |
| II  | マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成           |
| III | スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築        |
| IV  | 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成 |
| V   | スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成      |

学校名【 弥富市立弥生小学校 】

1 実践テーマ	【 I、III、V 】
2 実施対象者	5年生2学級 男子39名、女子38名、計77名
3 展開の形式	<p>(1) 学校における活動</p> <p>① 教科名 ( 総合的な学習の時間 )</p> <p>② 行事名 ( )</p> <p>③ その他 ( )</p> <p>(2) 地域における活動</p> <p>① イベント名 ( )</p> <p>② その他 ( )</p>
4 目標 (ねらい)	<ul style="list-style-type: none"> <li>教材「I'm possible」の「パラリンピックって何だろう」を使用し、パラリンピックについての知識を深める。</li> <li>車いすバスケットボール選手との交流を通して、スポーツを楽しむ心や挑戦する心を育てる。</li> </ul>
5 取組内容	<p>1 【総合学習】「パラリンピックへの理解」</p> <p>(1) 実施月日 12月6日(金)</p> <p>(2) 内 容</p> <p>教材「I'm possible」の「パラリンピックって何だろう」のDVDを視聴し、パラリンピックについての意義やパラリンピックについての知識を深めた。</p>  <p>2 【総合学習】車いすバスケットボールチーム出前授業 「障がい者スポーツを知ろう」</p> <p>(1) 実施月日 12月9日(月) 2、3限目</p>

## (2) 内 容



車いすバスケットボールチーム6名に来校していただき、3対3の試合形式のプレーを見せていただいた。車椅子同士がぶつかったり、倒れたりする等、迫力あるプレーを見て子供たちは驚いていた。

その後、競技用の車椅子体験を全員で行った。福祉実践教室で、普通の車椅子に乗った経験のある児童は三分の一ほどであったが、12台の競技用の車椅子を持ってきていただいたおかげで、全員が実際に乗ることができた。



さらに、4グループに分かれてシュート練習も行った。普通の車椅子と違い、競技用の車椅子は動きやすいことに気が付いた児童もいた。普段、立ってシュートするより、座ってシュートする方が距離が長く、なかなかゴールが決まらずに苦戦していた。しかし、どの児童もシュート練習に集中していた。



3時間目は、児童選抜チームによる6対6の練習試合を行った。最初に見た試合のよ

うには、ボール運びができず苦戦していた。両手を使って車椅子の操作をしながらパスを受け、ドリブルをすることは見た目以上に難しかったようである。

最後に、クラスに分かれ、車いすバスケットボールチームの選手の皆さんへ児童がいろいろな質問をした。「車椅子のタイヤがハの字なのはどうしてか」「車椅子でつらかったこと」「車いすバスケットボールを始めた理由」等不思議だと思ったこと、気になったことを聞いた。どの選手も子供たちに分かりやすい言葉を使い答えてくださった。



	<p>3【総合学習】「パラリンピックアスリートとの交流を通して学んだこと」</p> <p>(1) 実施月日 12月9日(月) 5限目</p> <p>(2) 内 容</p> <p>今回の授業を通しての感想と学んだことを、それぞれがワークシートに書いた。多かったのは、「車椅子でもバスケットがすごく上手だった」「普通に仕事をしていて、元気で明るかった」「筋肉もりもりでかっこいい」「パラリンピックを見てみようと思った」等の感想が多かった。</p> <p>ぼくはしょうがいをもっていない人たちが、けがスポーツをやるのではなく、しょうがいがある人でも楽しくできるスポーツをいっぱい増やせるといいです。ぼくは今日あった選手たちがパラリンピックにでるとしんじせんりくしておおえんします。</p> <p>クラスに分かれての質問タイムで、聞いたことを受けて「障がいをもっていない人だけがスポーツをやるのではなく、障がいがある人でも楽しくできるスポーツをいっぱい増やせるといい」「障がいがあるからで人を差別する考えはいけない」と書いている児童も多数いた。</p> <p>足がないから障がいがあるからで人をさべつする考えはいけない</p>
6 主な成果	<p>実際に、車いすバスケットボールの試合形式を観戦した児童たちは、車椅子同士でぶつかり合い、倒れてもすぐに起き上がり、プレーをする選手の姿に驚いていた。さらに競技用の車椅子に乗り、同じようにシュート体験をしたことで、その大変さを実感できた。大変な動きを選手たちは、軽々とやって見せたので、多くの児童が「選手はかっこいい」と言っていた。</p> <p>障がい者という、できないことが多いと思っている児童が多かったが、今回の授業を通して、「自分たちも障がい者も、同じである」「同じようにスポーツを楽しむことができる」と感じたようだ。</p> <p>「車椅子で嫌だったことは？」の質問に対して「車椅子を理由に、お店に入れなかったこと」という言葉を聞き、驚いていた。「差別をしない社会を作りたい」「自分ができる手助けはしていきたい」という感想から、実際に、車椅子の選手たちとふれあうことで、障がい者について、その子なりの理解を深めたことが窺える。</p>
7 実践において工夫した点(事業の特色)	<p>全国3位の車いすバスケットボールチームの試合を、実際に見ることで児童の学習意欲を高めることができた。</p> <p>車椅子に乗って生活をしている選手たちに、日常生活で楽しいこと、嫌だったこと等、生の声を聞くことで、児童の心に響く取組となった。</p>
8 主な課題等	<p>今回のような全国3位のチームを6人も出前授業の講師として、来年度も依頼するのは、学校独自では予算が厳しい。</p>
9 来年度以降の実施予定	<p>今まで通り福祉実践教室を中心とした授業は行う。オリンピックだけでなくパラリンピックの存在を児童に知らせ、障がい者スポーツに目を向けさせる。今回事前学習で使用したカードを今後も利用することで、障がい者スポーツについて学習する。</p>